

1 始めに

本日(12日)、招かれて「靖国神社御創立 150 年記念事業「さくら陶板」竣成記念式典・内覧会」に参加した。

“未来へつなぐ靖國の心”をテーマとした記念事業の一環である「さくら陶板」事業には正に現代名陶工の想いが込められており、接する者の胸に迫るものがある。

2 「さくら陶板」について

(1) 概要

「さくら陶板」は、国の礎となられた御祭神が往時歩まれたであろう故郷の土を使用して、日本が誇る伝統的文化である陶磁器を用いて神社の象徴ともいえる桜をモチーフにした陶板を各都道府県の著名な陶工の皆様に奉納いただいたものです。

御祭神へまごころを込め、伝統の技によりつくられた陶板一枚一枚は慰霊の心とその継承を表します。

令和元年(2019)御創立 150 年を迎えるにあたり、本殿に御参拝いただく皆さまの道しるべとなるよう記念事業として整備された「慰霊の庭」に建立されました。

各陶板の台座には、靖国神社と同じく、国の礎となられた御当地出身の御霊を祀る全国各地の護国神社名・御鎮座地を記しています。

皆様には「御祭神の御遺徳」に触れて頂き、それぞれの陶板に導かれ護国神社へもお参りいただきたく存じます。

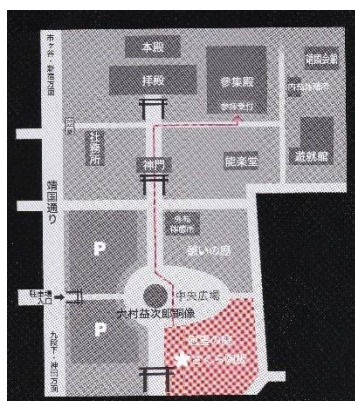
併せて、「遺族の心」を未来へつなぐべく奉慰顕彰に努められている各都道府県遺族会の名称も記しています。

本殿への道しるべとして「さくら陶板」にいざなわれ、心ゆくまでご参拝ください。

(以上「さくら陶板」パンフレットから)

(2) 建立地

参道入口から大村益次郎銅像(中央広場)迄の右側に整備された慰霊の庭に、九州から北海道まで順次に建立されている。



(3) 老生関連の陶板

老生に関連する鹿児島、福岡、東京、埼玉及び沖縄の陶板の写真



(鹿児島)

(福岡)



(埼玉)

(東京)

(沖縄)

3 参加所見等

(1) 御祭神所縁の土が必ずしも陶磁器に適している訳ではなく、それぞれの陶工の方には数多の御苦勞があった由、感謝である。各陶板は芸術的な観点からも見応えあるものと感ぜられるが、その真価はそれに込められた想いにある。

靖国神社参拝の折りに是非ともこの慰霊の庭に佇み、郷土の先人に想いを馳せて頂きたいものだ。

(2) ご遺族も高齢化し、その想いを如何に伝えるかに苦慮されているようだ。子供世代は働き盛りでもありまますという側面もあるとのこと。孫世代にしっかりと伝えることに意義あると感じて居られるようだ。

(3) さくら陶板の一片は各道府県の護国神社に贈呈奉納されるとのことで、慰霊の心が国内普く満ちることとなる。御祭神に対する崇敬と感謝の念を多くの国民が抱いて頂けるその一助になるであろうことに疑いはない。

(4) 靖国の杜で汚濁に塗れた心を流し、国に殉じた先人の家族。郷土そして国に対する想いを汲むことは現代を生きるものの純なる責務である。その地に居ることで自然に感得されるから不思議だ。これをお導きというのだろう。

4 七言絶句 (6月15日作)

九段陶櫻絶俗喧
名工込想造忠魂

須 伝 明 日 御 靈 志
崇 敬 祭 神 我 報 恩

九段の陶の櫻は俗暄を絶し
名工は想いを込めて忠魂を作りし
須らく明日へと御霊の志を伝うべし
祭神を崇め敬いて、我はその恩に報いん

(了)